

「県民協働による事業改善」 点検結果と対応状況

事業番号	C - 6	担当部課名	警察本部警備第二課
------	-------	-------	-----------

事業名	災害警備対策事業
-----	----------

1. 点検結果集計

(単位:人)

区分	(1)行政が実施する必要「無し」	(2)国・市町村での実施が望ましい	事業規模、内容・方法を見直す必要「有り」			(6)「現行どおり」事業を継続
			(3)事業規模を「拡大(増加)」	(4)事業規模を「縮小(減少)」	(5)事業規模は「現状維持」	
県政モニター				3	6	5
有識者			1		3	1

2. 点検シートの内容等と対応状況

点検シートの内容等	県としての考え方・対応方針
<p>【投入予算や従事職員数に対して得られる効果(費用対効果)の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の内訳は精査して対応すべき。5年のリース毎に新しい機器に更新して欲しい。 ・ 総合指揮室の装置、ソフトの更新については、リースが良いのか買い取りが良いのか今後、要検討だと思う。(同趣旨2件) ・ 本部総合指揮室の活用法の検討。高いリース代が無駄にならないように大切に活かして欲しい。 ・ 機動救援隊80名の中で広島災害支援に参加した隊員がいれば、その体験は貴重であり、今後に活かされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合指揮室大型表示装置等の契約は、現在まで5年リースとしていますが、契約方法については今後検討を進めます。 ・ 御嶽山噴火災害において、総合指揮室に災害警備本部を設置しており、より一層の有効活用を図っていきます。 ・ 各種出動経験に基づいた教養等を行い、今後の災害警備活動に活かしていきます。 広島県土石流災害への本県機動隊の特別派遣はありませんでしたが、御嶽山噴火災害で機動隊、管区機動隊等多くの隊員が現場出動しました。今後、これら経験に基づく教養を実施するなどして、災害警備活動に活かしていくこととします。 なお、御嶽山噴火災害の出動状況に基づき、平成27年度予算で噴火災害に必要な装備資機材の整備を進めていくこととしています。
<p>【地域やコミュニティの参加や連携の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人のスマホの情報を吸い上げる。交通管制センターの情報を公開のルールを作る。非常時または渋滞レベルでもOKにする。 ・ 地域や住民と警察との関係を広げてみる。(災害後のボランティア、出動できないような大災害のケースの周知、災害や援助活動の啓発など)(同件1件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種媒体を活用した情報提供、メール等による情報収集を実施していきます。 ・ 避難所等の警戒において防犯ボランティアとの連携等を図っていきます。
<p>【現行どおり事業を継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の警察、消防、市町村、県の役割分担があまり知られていない。 ・ 警察の広報をもっとしても良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な広報活動を実施します。 御嶽山噴火災害では、捜索・救助、行方不明者の確認、交通規制、検視、御家族等への支援、被災地の治安維持のための後方支援活動等、活動が多岐にわたりました。 このように多岐にわたる災害警備活動等の警察活動に対する理解を深めていただくため、積極的な広報活動を実施してまいります。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく県の他組織や市町村の情報共有、共通化ができるようにしてほしい。(同趣旨2件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡体制の強化、各関係機関が集まった現地対策本部での具体的な情報共有の実施等により、一層の連携強化を図っていきます。

3. 平成27年度当初予算要求での対応

○御嶽山噴火災害警備対応等の装備資機材、検視用資機材の整備を進めます。

(単位:千円)

	H27当初要求額	H26当初予算額	増減(H27-H26)	[増減内容]
事業費(A)	77,099	35,662	41,437	・御嶽山搜索活動用等の装備資 機材の整備 41,437千円
うち一般財源	76,981	35,544	41,437	
概算人件費(B)	83	83	0	
概算事業費(A+B)	77,182	35,745	41,437	